# 研修レポート

## 専門研修課程Ⅱ・主任更新研修事前研修

日　時：平成 29 年 7 月 15 日（土）13：30～17：00
場　所：大村市中央公民館（コミュニティセンター）
テーマ：『地域ケア会議の有効活用と地域資源の開発について』

平成 29 年 7 月 15 日に大村市中央公民館におきまして、「地域ケア会議の有効活用と地域資源の開発について」と題し、研修が開かれました。

講師は、長崎県介護支援専門員協議会副理事であり、本会の資質向上委員会委員長も務めておられる藥王寺 宏平 氏。

講演では、これからの人口減少、出生率の低下により予測される高齢化、コミュニティの希薄化に対し、自助努力を基本としボランティアや住民活動などのインフォーマル活動等と介護や医療などの公助を共同させ、住み慣れた地域で最後まで暮らし続けられるような仕組みを作っていく地域包括ケアと、その中で大きな役割を担う地域ケア会議についてグループワークを通し理解を深めさせていただきました。

まず、地域包括ケアシステムについて、日常生活圏域の中で高齢者だけでなく、障害者、児童・幼児などを含め、24 時間 365 日切れ目のない支援ができるように地域づくりを行い、住み慣れた地域で最後まで暮らしつづけられるよう支援する仕組みであると説明され、その中での「地域」の中に含まれるものは、在宅だけでなく自宅がある地区にある特別養護老人ホーム等も含まれると説明されました。

今後、そうした生活圏域にある特別養護老人ホーム等を拠点として家族や近所の知り合い等の普段からかかわりがある人の訪問や支援を受け、自宅と変わらない生活を過ごす事も地域で暮らす事に含まれると説明されておられました。

また、これから先、介護や医療を受ける場についても高齢化率の上昇、人口減少を受け在宅への流れは加速していっており、介護保険だけでなく、医療保険やその他の公的な制度においても対応が難しい課題に対して、自身での自覚や自己決定を基本とし、「自身・家族で予防する…自助」、「地域の中でボランティアや住民組織で支える…互助」に対しての強化を促す取り組み、そうした取り組みと医療や介護や制度とお互いを上手く連携させていく必要、地域の実情に合ったこまやかな支援を作りだしていく必要が出てきており、今後、「地域ケア会議」の役割が大きくなってくると話されました。

その目的については、個別ケースの支援内容検討（地域のケアマネージャーのマネジメント支援、高齢者の実態把握や課題解決のための地域包括支援ネットワークの構築、課題分析による地域課題の把握）、地域の実情に応じて必要と認められる事項の検討を目的としていると説明され、地域ケア会議が持つ機能については、

① 個別課題解決
② ネットワーク構築
③ 地域課題発見
④ 地域づくり・資源開発
⑤ 政策形成

という５つの役割に分けられると話されました。

①については、個別事例について多職種にて対応することで問題解決を図っていくとともに、ケアマネジメントの質を高めることにつながっており、②～④については、地域の中でお互いを連携させ、不足しているサービスや解決すべき課題を発見し、解決策や地域の中で課題への理解を進めていく事で、社会資源やネットワークを作りその解決を図っていく事。

さらには解決が難しいことについては、⑤に上がっている県や国等の政策での対応ができないか提言を行っていく事でより解決する力を高める事ができるようにしていく機能を有すると説明されました。

その後、グループワークにて参加者の各地域における課題や現状を確認し、自分達が住んでいる地域についての情報収集、地域課題の抽出し、そこから利用者の希望や意向をかなえる為、生活を改善させる為に必要とする資源等について検討を行いました。

今回行ったグループワークでは、自身が住む地域の中でより良い生活のために生かせる意見やアイデアが多く上がっており、今回学んだことを自分たちの地域に持ち帰り、地域の方と共に、意識を高め、地域の活性化、誰もが住み慣れた地域で最後まで暮らせるような支援を目指せるように取り組んでまいりたいと思います。

長崎県平戸市
居宅介護支援事業所　あんじん
坂口　裕紀